

京交山岳部報

今月のテーマ <山は新緑>

〔第1735回例会〕

富士山春山・ 毛無山・富士樹海彷徨

日時 5月3日(祝)～5月6日(土)
 集合 壬生交通局前 AM7:00
 コース (3日) 京都-富士山5合目駐
 車場…佐藤小屋(泊)
 (4日) 佐藤小屋…富士山頂…
 佐藤小屋(泊)
 (5日) 佐藤小屋…5合目駐車
 場-青木ヶ原樹海彷徨
 -朝霧オートキャンプ
 場(泊)
 (6日) 朝霧オートキャンプ場
 …毛無山…麓-京都
 担当者 岡田 茂久(☎822-3666)
 備考 申込 4月24日迄
 費用 約2万円

〔第1737回例会〕

歴史の舞台から桜の山へ

御破裂山△607.7M

日時 5月14日(日)
 集合 近鉄京都駅乗場 AM7:00
 コース 京都-岡寺…川原寺跡…西口分
 岐…御破裂山△…竜在峠…桜井-
 京都
 担当者 大倉寛治郎(☎3371)

〔第1736回例会〕

籠ノ登山・湯ノ丸山 ・鳥帽子岳

日時 5月2日(火)～5月5日(水)
 集合 大倉寛治郎氏宅 PM9:00
 コース (2日) 京都-地藏峠(仮眠)
 (3日) 地藏峠-駐車場…三方峰
 △…駐車場…籠ノ登山△
 -鹿沢温泉(泊)
 (4日) 鹿沢温泉…湯ノ丸山△…
 鳥帽子岳△…新鹿沢(泊)
 (5日) 新鹿沢-鳥居峠-和田峠
 -京都
 担当者 吉田 茂(☎331-0998)
 備考 費用 約35,000円
 雪があると思いますのでスパッツ
 ・アイゼン等必要

〔第1738回例会〕

鷲ヶ岳 △167.2M

日時 5月20日(土)～5月21日(日)
 集合 壬生交通局前 AM10:00
 コース 京都-岐阜羽島-美濃白馬…鷲見
 …鷲ヶ岳
 担当者 岡田 茂久(☎822-3666)

〔第1739回例会〕

奥ノ谷山

日時 5月28日(日) AM7:30
集合 壬生交通局
コース 壬生-広河原-芦生…奥ノ谷山
担当者 大槻 雅弘(☎722)
備考 地図を必ず持参。読図勉強をしま
しょう。自分で先頭を歩いて。

今月の集会

日時 5月11日(木) PM6:30
場所 厚生会館4F大教室

企画運営委員会

日時 5月22日(月) PM6:00
場所 厚生会館4F大教室



山岳部報発行費

岡田 茂久

部員諸氏に山岳部費の値上げについて、協力をお願いしてから一月がたった。しかし、部費の値上げを理由としての退部の連絡は今だ一件も届いておらず、それどころかかえって励ましの言葉を沢山頂くほどで全くありがたい事と思っている。特にOB会員の先輩方には、余分に負担を掛けているだけに、暖かい言葉はなんとも心苦しいところである。

おりしも4月1日からは消費税の問題が世間を騒がしているが、他分に漏れず山岳部報の発行費用を初めとして、山岳連盟の分担金と遭難対策積立金を除いては、全ての予算項目に消費税がしっかりついてくることになっている。せっかく協力頂いた部費も年間5,000円で一人当りにして消費税は150円。全体では2万円余りとなり、山岳部報半月分が税金として取られることになる。なんとも腹だたしいことだが致し方ない。山岳連盟の分担金も値上げの噂もあり、山岳部費を値上げしても決して裕福な財政になったとはいえないのである。

そもそも我々がなんで登山を始めたかと言えば、娯楽の少ない時代で登山は金が掛からず楽しめるという要素が多分にあったことも確かである。私が山岳部に入部した昭和32年当時の山岳部費は年間300円であった。わずか現行山岳部費にかかる消費税2人分並みである。昭和32年の年間予算は総計6万3千円で、うち山岳部報発行費はガリ版印刷ではあったが1万4千円と記録にあり、その比率は22%である。ちなみに国土地理院の5万分の1図が単色で35円、3色刷りで金45円の時代であった。

翌33年には、部費が400円に値上げされて年間予算は総計10万4千円となり、山岳部報も

今のような活版印刷となった関係で、山岳部報発行費が3万7千円となった。比率は36%と上がっている。この頃は厚生会助成金は年間予算の30%もあった。

平成元年では部費を5,000円に値上げし33年と比べると13倍になったが、予算総計では、67万3千円で約6倍である。これは厚生会助成金が年間予算の10%しか無いためで、これに比べ山岳部報発行費は51万6千円で14倍となり、予算に縮める割合はなんと77%にもなる。まるで山岳部報を発行するために部費を徴収しているようなものである。

部報は山岳活動の根幹であり、欠かすことの出来ない山岳部の事業ではあるが、どうも本末転倒の感じは否めない。山岳部報の発行だけが山岳部の活動ではない。山岳部報の購読だけが楽しみだという部員諸氏の声も聞くが、やはり山岳部は山に登ってこそなんぼである。このように多額の金を使って発行している山岳部報である。内容の充実した山岳部報を作成し発行するためにも、もっともっと山に登り集会に参加して話をして頂きたい。金も出すが、口も出し体も動かして欲しいのである。

〔第1729回例会〕

城丹国境尾根

横井 囊 二

岩屋橋で下りた70～80名の乗客の内、ひと握りの若者を除いては、殆どが40才以上の年配であったのは、いさゝか淋しい。といっても我々も年配組の仲間だ。一人を除いて。少し発声練習不足気味の、うぐいすの声を聞きながら、舗装道路を岩屋不動へ。

不動を左にみて山道に入る。ほどなく薬師峠に着く。大森東の集落、岩屋山、棧敷岳各方面の分岐点で、小さい御堂がある。昔の大森の人も京への往来のため、こゝで安全を願ったことだろう。こゝで道を右にとって棧敷ヶ岳へ向う。

薬師峠から棧敷ヶ岳までは、平面距離にして、2.5km位で、標高差は400m位なので近郊の比良連峰や、愛宕山に比べ、案外楽な行程である。

春の日を浴びてゆっくりと登るが、汗ばんでくる。樹々の芽もふくらんで、春の息吹きが感じられる。しかし、高度を増す如に、3日前に降った雪が、この陽気に溶けて、赤土に混じり歩きづらい。

熊笹と雑木林の間をゆっくりと進む。西側に伐採された、非常に大きな三角の平面が頂点を下にして広がっている。頂点の下が大森東の集落で、少しの残雪の中淡い春の光の中で、遥かに輝いている。展望のよいことは嬉しいが、伐採の後の植林はよろしくお願ひしたいものである。

さらにゆるい登りと、トラバースを繰り返して進むと、高圧鉄塔の元に出る。棧敷の頂上は指呼の間であるが頂上は雪が多そうなので昼食。例によって熱いうどんで腹の虫を満してやる。風はやゝ冷めたいが熊笹の影のため温かく眠気を誘われる。

大休止の後、ほんの少しの急な下り急登で、一気に棧敷ヶ岳895.9mの頂上に立つ。三角点は10cm程の雪の上に在った。多勢の人が登っているので、山頂は熊笹と雪と踏み跡で、ぐしゃぐし

やであった。

東の方の比良連峰が残雪を伴って、やゝもやった感じの中で銀色に輝いていたが、京都の街から見ればまさに天井桟敷であるこの山も、今日の山頂からは京都の展望は少々無理だった。

三角点にタッチの後飯森山の方へ向う。小さい起伏の尾根道を西へ。相変わらず道は悪い。ナベクロ峠を経てやゝ登った地点で、桟敷ヶ岳と飯森山、天童山の間の高圧鉄塔の下にでる。飯森山が2km程先に見えているが、大森からのバスの便が不明のため、こゝで引返し、祖父谷の方に向って北へ下ることにする。明るい谷であるが道は登りよりもひどい。やゝ平たんなどところにくると、林道造成中で山肌をブルがけずり、道巾は広がっているが、その道たるや田植時の田に匹敵する程の悪路で、これにはほとんど閉口した。当分は此のコースは通らない方がよいだろう。

狼峠下からは平凡な林道を岩屋橋まで下った。

[コースタイム]

三条京阪 8 : 26 …岩屋橋 9 : 45 …薬師峠 10 : 30 …鉄塔(山頂下) 12 : 00

鉄塔 13 : 20 …山頂 13 : 25 …ナベクロ峠 14 : 10 …鉄塔 14 : 35 …祖父谷下 15 : 00

…岩屋橋 16 : 10 …岩屋橋 16 : 40 …北大路駅 17 : 30

[参加者] 津田 実、原田かつ子、横井

[第1730回例会]

五竜遠見スキー場から遠見・黒沢尾根(山スキー)

大木 秀 実

京交山岳部では、四季の山を楽しめるように例会が計画されていますが、ここ数年3月の連休には、大槻雅弘氏の担当で北アルプスにスキー板を持って登られていて、厳冬期～早春の山を楽しまれています。今回の例会も、当初五竜岳にスキーを持って登ることを目的に計画されていましたが、諸般の事情により五竜遠見スキー場から遠見・黒沢尾根の山スキーコースに変更されたものです。

昨年M氏よりスキー板を戴いたが、その機会がなく、今回始めて山スキーを楽しむために参加させてもらいました。メンバーはリーダーの大槻さん、井戸さん、そして私の3人です。

3月19日(土)家に迎えに来てもらった大槻さんとPM7:00まえのテレビの天気予報で晴れることを確認して、九条営業所で井戸さんと落ち合い出発。名神・中央高速を走り約5時間で今日の目的地五竜遠見スキー場に到着、駐車場に幕営。ささやかな宴のあとシュラフにもぐりこむ。

3月20日(日)「テントを撤去して下さい」との駐車場の整理員の声で目を覚ます、外に出てみると、昨夜はがら空きだった駐車場が車で周りはビッシリ。

朝食後テレキャビン・リフトを乗り継ぎスキー場の最上部へ、スキーをつけて出発、地蔵の頭までは多くのスキーヤーと共に登る、ここから先は山屋の世界である。五竜岳に登るパーティーと前後しながら大槻さんを先頭に登っていくが、新雪の下はアイスバーンで歩きにくい。小遠見山に着くと鹿島槍ヶ岳～五竜岳の大パノラマが現れ、厳冬期の厳しさゆえに美しい姿が目前に迫る。

展望を十分楽しんだ後、時間を気にしながら天狗岳に向かって一気(?)に滑降(シールを付けたままの滑りも難しいものであった)、天狗岳を経て天狗の鼻では、幸運にも井戸さんが三角点を見つける。少し雪を払うと三角の標石が現れた。

天狗の鼻からの下りは一旦スキーを外して慎重に降り、広い尾根に出てから再びスキーを付け滑降、少々バテながら分岐点に着く、ここで日没が予想されたので衣類を整えシールを外し左の尾根に行く。

樹林帯の中に入り、大槻さんが地形図を何回も確認しながら慎重にルートを選び、滑って行く、スキー場が見え始めたころに日没、幸い月明かりで視界が得られたため、1ピッチ毎慎重に進む、犬川に降りる急斜面でスキーを外し、犬川を徒渉し林道をゆっくりスキー場に帰る。

駐車場でテント設営後、焼き肉で真夜中の大宴会を催すが、疲れと無事帰還出来た安堵感からか睡魔には勝てず、早々にお開きとなる。

3月21日(月)「足が痛いので待っている」と言う井戸さんを残し、午前中ゲレンデスキーを楽しみ、白馬温泉で入浴後、糸魚川回りで帰京した。

『山スキーを楽しむ』までにはまだまだ至らなかった、『しんどかった』というのがこの例会に参加しての感想です。なおこのコースは今年の山と溪谷の3月号に写真と共に詳しく紹介されています。

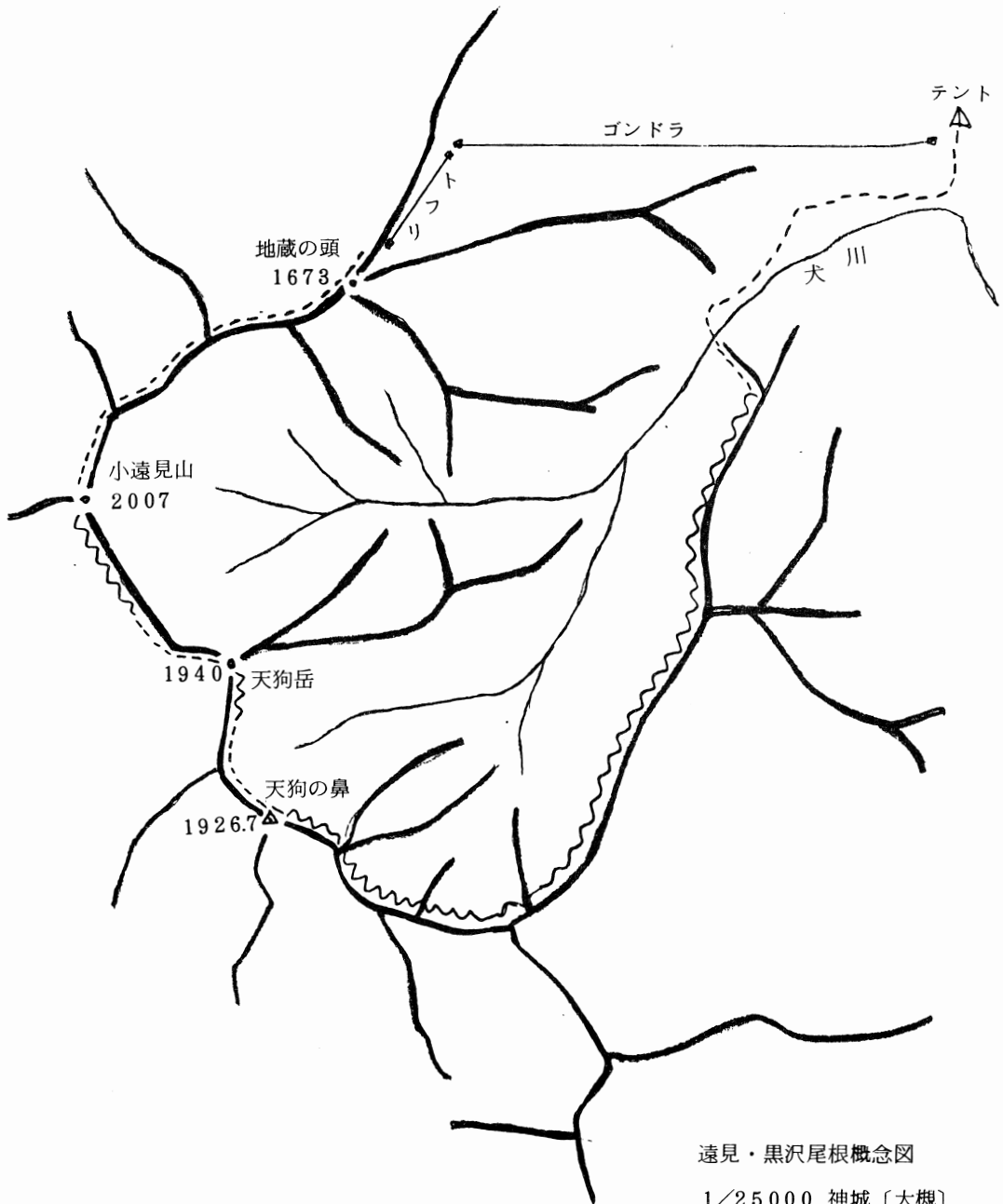
[コースタイム]

3/19(土) 九条営業所 $\xrightarrow[358\text{ km}]{(京都東IC 19:55 \quad 恵那SA 21:49)}$ 豊科IC 11:35 $\xrightarrow[50\text{ km}]{} 五竜スキー場 0:30$

3/20(日) 駐車地 8:10 $(8:37 \text{テレキャビン・リフト})$ リフト終点 8:57
9:20 地藏の頭……11:30 小遠見山 11:50……12:55 天狗岳…
13:55 天狗の鼻……分岐点……20:54 犬川(林道)……22:10 駐
車地

3/21(月) (午前中ゲレンデスキー) 駐車地 $\xrightarrow[61\text{ km}]{白馬温泉 15:35}$ 16:47 糸魚川 I
C $\xrightarrow[398\text{ km}]{} 21:35$ 京都東IC $\xrightarrow[10\text{ km}]{} 21:50$ 九条営業所

参加者 大槻 雅弘、井戸 澄夫、大木 秀実



— 山行を終えて —

昨年、八方尾根から唐松岳へ、一昨年、白馬大池でテントを張って白馬岳へ。そして今年は遠見尾根から五龍岳へと思っていた。

ところが、今年のメンバーは「五龍はしんどいどっせ、やめときまひょ」その一声で「ほんならスキーで行こ」と言うことで上記のレポート通り、何がしんどいのか。14時間も行動するなら、五龍の方がましやっとな。遅い食事をしながら一口のアルコールで、バタンキュー。いろんな思い出が出来ました。リーダーとして反省する点も多くありました。とにかく苦しかったです、おそらく来年も懲りずに次は鹿島岳を目指して行こうと声を掛けるでしょう。来年のメンバーを楽しみにしています。

大槻 雅弘

[第1731回例会]

黒尾山△509.4と宇野(点名)△555.8M

津 田 実

3月26日(日)

例会の合間を縫って今日も四ツ谷へと車を走らす。トンネルを抜けると雪国ならぬ、周山の町が見えた。その左手最初の橋を渡り、大堰川の右岸を下って行き、魚ヶ淵の集落を過ぎると目差す柏原はすぐだ。

ところが橋を渡った左手に全面通行止の立看板でシャット、アウト。止むなく周山大橋へとう回する。魚ヶ淵は若い頃、魚釣りによく行ったところ、どんなに変わっているか、見たかったが仕方ない。

柏原の民家で尋ねると親切な老爺が、態々家から出て来て丁寧に教えてくださった。

林道終点から右へ杉林の中の小径を登って行く。清流の涸れた地点から左へ樹間に見える峠状の地点へ、昨夜のご乱行の祟りか身体が重い。黒尾山と498地点の間の峠状の地点北斜面は刈り取られて前方の山々が、「ヨオ、懲りもせんとまた来たか」と迎えて呉れた。」

黒尾山△509.4mの三角点はすぐだった。西陣山岳会の標示を確認し、来た小径を降りようすると又もや、大槻さんの病癖か？ 山屋の本能か？ 「来た径は面白いサカイ違うとこ通って降りよう」そんなこと言うたてワシヤ径知らんがな。」でも彼の的確な読図力により迷わず林道に出られた。エライスマヘン。ではもう一丁稼ごう。

下宇津から宇野への四ツ谷の地図の道は樹間を九十九折れで人っ子一人も通らぬ道であった。

△555.8mの取付道の終点のとある民家で山への道を教へて貰おと声を掛けると意外にも異人さんが現われたのには吃驚仰天、それに流暢な関西弁で最新の情報を知らせて呉れて、二度吃驚。「貴方こんな田舎で不便でしょう」と言うと彼は「私の田舎は車で1時間半も走らないと買物が出来ないが、此処は周山迄行けば好いから楽だ」とのこと。但し雪が来ると困るといっていられた。

アメリカ、イリノイ州の話である。

そこからは、たしかな踏跡が続き、ナメ籠の連続する地点で点線は尾根の中程を示しているが踏跡は谷の左へ続いている。右側は杉の枝打ちをした後で通行不能、迷はず左の踏跡をどんどん登り稜線を右へ疎林の中を進むと雑木の中で白い石が呼んでいた。

此所で珍しい物を見た。点名と緯度を書いた標識板が違っていたのだ。小生も山は少し歩いた心算だが此の様な珍物はお目に掛ったことはない。大槻さんに早速カメラに収めて戴く。帰りは先程の米国人の方にお礼を述べて帰った。三才位の女の児が可愛いかった。

〔参加者〕 大槻 雅弘、津田夫妻

〔個人山行〕（四ツ谷シリーズ）

神楽坂～綾嶺△588.3M～海老坂

津 田 実

昨今は雨々、また雨。時季外れの菜種梅雨とやらで陰うつな日々を送る毎日であった。

そんな休日の或る朝、電話のベルに叩き起された。何事と慌てて飛び付くと、岳友三橋氏の声、四ツ谷の山へ行くサカイ、用意しとけとのこと。時計を見ると御来駕迄の時間は幾何もない。地図もなければ、お弁当もない。その旨を伝へると、「そんな物はエエサカイ、早くせい」との忝ない御託宣。

車中で行く先を尋ねると、神楽坂の上に地元の人の言う綾嶺、2等△588.3へ行こうとのこと。地図を見せて貰って思い出した。先に報告した海老坂に鳥居はなく、鳥居のあったのは神楽坂であったのを、田中忠久さんに連れて貰って鳥居から愛宕さんを拝んだのはまさしく神楽坂だった。歳月は物事を忘却する。

神楽坂と海老坂の由来については、金久さんの北山の峠（中）と（下）に詳細に書かれているので小生は攔筆する。

下佐々江の集落外れを右折して林道を約1.2kmを進んだ地点に金久氏のご指摘のとおり左原道と書かれた小さな道標のあるのを大槻さんが目ざとく見付けて呉れた。その地点で車を止めて支度をする。

峠道は少し荒れてはいたが歩き易い。なにしろ古代からの街道であったのだから、峠には鳥居も地藏さんも健在であった。

以前は、田中さんと原側から登ったのでこれで神楽坂は越えたことになる。綾嶺へは地藏さんの横を登って尾根に出て冬枯れの疎林を歩くことになる。右手下方の谷間に見える家々は原の集落か。大槻さんの読図と歩き易い疎林のなかをなんとか綾嶺2等△588.3mに辿り着く。

例によって神前のお下りを頂戴、付近の果しない山々の景観を眺めていると時間のたつのを忘れて仕舞う。

「おとうやん行こか」と大槻さんの声に我れに返り、もと来た方向に戻りかけると、そら違う、

「海老坂へ行くんや」エエそら約束が違うや、海老坂へは径がないし、海老坂峠からもとの駐車地点に戻るのが大変だ。こらエライコトになった。と内心ギクとしたが付いて行くより仕方ない。

三角点より西北の方向に先日登った大岩らしい山が見える。それを目標に急斜面を少し降りると広い峰に出た。これが最大の難物で行く先の目標がない。尾根芯を見付けるのに少し手間がかかったがなんとか切り抜け、地図上497地点を越え目の小高い峰を過ぎれば海老坂峠と落葉を踏み心も軽く身も軽く、ところがその峰の上って見ると下は、杉林で左に深く谷間へ切り込み、又、峰が現はれた。コラエライ、コトニナッタと思った瞬間、「オトウチャンこれでしまいやサカイ頑張れ」との声、彼は読心術でも心得ているのか？

上から下を見ると成程峠状ではあるがまだわからない。下まで降りて初めて判った。八百比丘尼が背負って来たと言はれる地藏さんが祀ってあった。此れが衆生済度の玉岩地藏さんか。然しこの地藏さんも首がない。永い歳月が地藏さんを変えて仕舞ったのかも。でも反対側に「従是南船井郡」と書かれた石柱が建っていた。

金久氏の文中に「海老坂は古色蒼然と領し」とあったが、たしかに小生の胸に何か知らぬものが迫る思いがした。

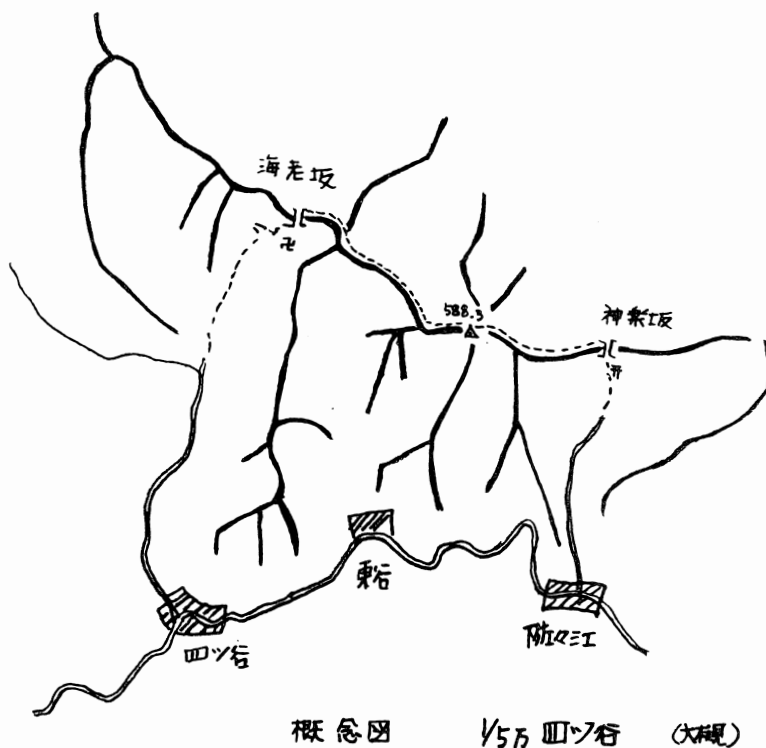
峠を降りると立派なお堂があり記念写真をとり、親切な若者のご厚意で駐車地点まで送って貰った。彼も山をヤルらしく、おたがいさますとのこと、ありがとうございました。

〔参加者〕 大槻 雅弘、三橋 勉、津田 実

〔コースタイム〕

3月5日(日)

林道車止1.3キロ地点11.15…鳥居(愛宕山遥拝所)11.40～50…神楽坂11.53～58
…P512m12:08…2等△綾の嶺(気温6℃)12:32～13:45(昼食)…PM
(気温2℃)14:50…海老坂15:07～15:15…一寺15:30…四ツ谷16:15
(車ヒッチ)一車止16:25～30 (三橋)



残雪の山 恵那山

三 橋 勉

4月1日(土)

午後発で、田村君と私が上島さんの車で一路名神を東行、瀬田付近まで事故の渋滞があったが、その後スムーズに走り明るうちに黒井沢合に到着し、早速テントを設営する。この付近でも比叡山より高い位置なので夕暮れになると寒くなってくる。

翌朝、小鳥のさえずりを聞きながら目覚める。今日は、快晴で付近の山々に朝日が当たっている。黒井沢林道を50mも進むと大きく崩れていて車では、到底入れないと思った。約30分林道の大きくUターンしている個所に登山口があり、すぐに丸太橋がかかっていた。やはり山道を歩くほうが、気分も乗って来て気持ちが良い。

やがて小広いテント場があり、小屋の前に頂上まで3時間と書いてあった。もう水場がないものと思い水をくんで、登って行く途中谷を渡るところがあった。ほぼ谷沿いに進むが、日影の所では残雪が凍っているので、慎重に進む。稜線に出て少し行くと、池に到着した。この付近から残雪が多くなり、田村君のプラスチックブーツがいよいよ役にたちそうだ。

夏道どうりにトレースがあり、林間をぬき出ると素晴らしい展望が開けて、まず中央アルプスが一番近くにそして左に御岳、乗鞍と反対側に南アルプス連山が遠く真っ白の雪山で現れた。

このあたりから、カメラタイムが多くなり、ペースが遅くなる。一度ピークに登った所で、少し下って登り返して左へトラバースぎみに進んで行くと、頂上小屋まで30分のところを50分と訂正した案内板があった。我々も途中でパンを食べたりした為、約50分程かかってやっとこさ到着した。最近、中津川市が新しく建て直された、まだ木の香りのする気持ちの良い小屋であった。

小屋の後方に大きな岩場があり、そこから伊奈谷(天竜川)をはきんで、南アルプス連山を見ることができた。三角点のあるピークは、戻る方向にあり、約10分で小広い頂上に到着した。半分雪で埋まっていて、勿論三角点は分からなかった。小屋にあったスコップで付近を30cm程掘ってみたが堅いアイスバーンがあり、田村君が1m程掘ってくれたが残念ながら分からなかった。

登り4時間程かかったコースであったが、残雪のくぐりなどは、2時間半程で下山出来た。調度1年前に計画した山行であったが、良い天気にも恵まれ、御岳などアルプスの雪山が見られて、印象に残る山行であった。

[コースタイム]

車止7:06…登山口7:30…山小屋7:46…野熊の池8:50~9:10…山頂小屋11:26…恵那山12:00~13:30…野熊の池14:34…車止16:10~16:50—
京都東19:30

例 会 報 告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
1728	荒島岳	3月4日		大倉寛治郎		中止しました。
1729	城丹国境尾根	3月12日		津田 実	横井、原田	別稿詳報
1730	春山遠見尾根 から五竜岳	3月18日 ~21日		大槻 雅弘	井戸、大木	別稿詳報
1731	黒尾山と宇野 (点名) (金クソ岳を 変更)	3月26日		大槻 雅弘	津田、F1	別稿詳報
1732	城山(岳山)	4月8日		大倉寛治郎	奥村	次号詳報
1733	西山の植生研修	4月9日		坂井 久光	近藤 他26名	次号詳報

部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
神楽坂～緩嶺 ～海老坂	3月 5日		大槻、三橋、津田	別稿詳報
(点名) 福居△618.8 西谷△675.2	3月12日	晴	三橋 勉 大槻 雅弘 他1名	堀越トンネルは若丹国境を横切っている、と言うより若丹国境を堀越トンネルは抜けていると言うべきだろう。その若丹国境上にあるトンネルから西に一番最初の△675.2と美山町福居の東にある△618.8を縦走してきた。読図と山を楽しめるコースだ。2日程前に降った雪で10cm程の雪景色。帰りは旧堀越峠を歩いて駐車地点へ戻った。
〔コースタイム〕				
福王子8:30-堀越トンネル手前3キロ地点車止9:35…3等△618.8m11:01～20…P579m手前12:10～12:55…P569m13:46～50…国境稜線14:23…P639m14:40…3等△675.2m14:52～15:30…林道15:50…堀越峠16:16…トンネル入口16:40…車ヒッチ16:45-車止16:50～17:05-安掛17:30-周山17:50-高雄18:16-福王子18:30				
大文字山	3月21日		井上F1、川原F2 山元F2	子供をつれて初めて合同登山をした。
恵那山	4月1～2日		三橋、田村、上島	別稿詳報
尻山	4月 9日		岡田	
(点名)砂迫	4月 9日		大槻	

雑 報

❁ 新入部員

石川かず枝 (OB) 血液型 O型
住 所 京都市北区紫野上鳥田町8
TEL 075-492-7556

❁ 他山岳会の会報 (受贈分)


3月号 青嶺
4月号 北山、京都山岳、近畿山行、比良山岳、
木羅、山友、跋涉譜、趣味の登山

❁ 受贈書籍

北山クラブ創立30周年記念誌
『北山百山』
借出し希望の方は事務局 大木 (TEL 859)
まで

❁ 新規満品の購入

8人用ドーム型テント (ライトエスペース)

御 婚 礼
御 引 越  地方宅配
運搬専用

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター・京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075) 581-3101
祝 い さ い わ い

本 社 ・京都市東山区大和 大和 通 四 条 下 ル
TEL (075) 541-2345(代)

お 知 ら せ

御得意様各位

平素は、格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
昭和63年6月より、新住所にて営業致します。
旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区 [↑]不明門通り六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)
TEL 075-351-6598(代)
㈱ 小林 地 図 専 門 店

SINCE 1980
THE LOG CABIN CO.
H.HASEGAWA'S SHOP
FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

帆 布・濾 布
テント・シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

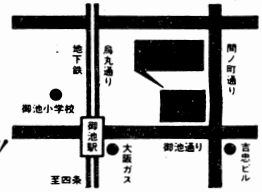
下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US放出品
ボイスカフト用品

mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入

TEL 075(258)-0548

●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休

(株) スポーツ コニシ

075-258-0548

- 技術とサービスの創る!印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL(075)791-6125(代)

FAX(075)791-7290

平成元年5月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部